モニターのここに注目

今回は、斎藤岳士さんの登場です。斎藤さんは、子どもたちが誇りをもって住めるまちづくりについて考えてくれました。

子どもが誇りをもてる笠岡にするために

「笠岡の住人が誇りをもって笠岡に住む」これが私の夢です。

笠岡市は人の流出が多く、人口は年々減少しています。この問題を解決するには、郷土愛を育むこと、すなわち誇りをもって住める笠岡にすることが大切だと思います。

郷土に愛着を感じる理由は人それぞれです。生まれた土地であるというだけでも十分な理由になりますが、子どもたちが成長していく過程で、「笠岡に暮らしてよかった」、「笠岡に育てられた」という思いをもって大人になれば、たとえ大学時代によその土地に住んでも、就職先が市外であっても、笠岡に住み続けようという気持ちが生まれるのではないでしょうか。

ここでは特に地域と子どもの関係に焦点を当て、「自分が笠岡で育ってよかった」、「自分が子育てをするなら笠岡で」という思いをもてる方策について考えてみました。

①特色ある教育を行って、笠岡で育ってよかったと子どもに実感してもらう。

地域の大人が、小・中学校あるいは高校でも、教育指導要領にはない法律の仕組みや家庭の築き方、家の建て方、あるいは人生の落とし穴にはまらないよう注意すべきこと、はまったときにはどうしたらよいかなどを教える活動。

②個人主義の世の中で、子どもに社会的な傾向をもたせる。

子ども時代に「近所のあの人にかわいがってもらった」という思い出をもつことが大切です。地域のお祭りでは、必ず子どもたちが企画・参加できるよう、学校にも配慮していただいて、子ども自身に楽しい祭りを追及させる。

大人と一緒に考え、作り、楽しめばおのずと知り合いにもなれるし、あいさつも交わすようになるでしょう。

③子どもたちに美しい地域環境を残す。

子どもたちが、地域の清掃活動に率先して参加するよう、学校で指導する。子どもたちが大人と一緒に汗を流して地域を美しくすれば、充実感・達成感を得られ、ポイ捨てや不法投棄に対するモラルも向上するでしょう。子どもが参加すれば、その保護者をはじめ地域の大人たちも、地域環境が現在、いかに大人たちの手で汚されているかを悟り、反省する点もあるでしょう。

④子どもたちもごみの分別収集や資源リサイクルに参加する。

大人だけが立ち番をするのではなく、必ず子どもも参加する。学校もその日は遅刻してかまわないという指導をする。そうすれば、地域でどんなごみ出しがされているのか、分別はどのくらいされているのかがわかり、地域は多くの住民の手で共同運営されているのだといったことを体感できます。家庭での分別にも率先して取り組むようになるでしょうし、地域での振舞いもおのずと襟を正したものになるのではないでしょうか。

以上のような活動をするにあたって、町内会の役割は大変重要です。多くの人がいろいろな場面で柔軟に（部分的にでも）参加できるような形に改めたほうがいいでしょう。町内会も、市民活動支援センターを活用し、また連合会を形成して横の連絡を取りましょう。活動内容についても協働のまちづくり課を活用して充実させていきましょう。

教育委員会や小・中学校との連携を深めて、地域と教育現場の相互的な進出を図りましょう。また、市も町内会に対して働きかけを強め、活動方法の提案をするとか、町内会に対して各種行政委任をするとか、財政・人材についても十分なバックアップをしましょう。

そうして、子どもたちが地域から締め出される疎外状況を打破していきましょう。そうなれば、あるいはそうなる過程に参加できれば、私は誇りをもって笠岡に住めます。あなたはどうでしょうか？

このページのご意見・ご感想をお待ちしています。
また、「市政についての質問・提言」などがあれば併せてどうぞ。
お便り…〒七一四―八六〇一　笠岡市中央町一―一
企画政策課モニター係
☎(69)2114　FAX(62)0228